



前老神温泉協会長
金子充さん

町おこしや全国PR
修復で気持ち新たに

みこしによって色が違うので、色の出し方に神経を使います。修復してきれいにすると、新たな気持ちで担ごうと身も心も引き締まります。先代の思いを引き継ぎ、これからも町おこしや全国へのPRに力を入れていきたいです。



昭和30年代の大蛇みこし



1 仲良く列を組んで、和気あいあいと作業を進める 2 うろこの輪郭に色を付ける女性の協会員 3 コロコロとローラーを転がしながら笑顔を見せる

保存され、全て老神温泉観光協会員の手作りです。
フェスティバルの約2年前、大きなみこしを作つてギネスに登録しようと、同協会は108の煩惱を除くことを願つて突く除夜の鐘にちなみ、108段に挑戦。これを聞いた観光分野の研究を行う日本交通公社の薦めで、フェスティバルへ参加しました。
3年に1度、みこしの修復作業を行い、今年は108段の大蛇みこしを含む2体の作業を進めています。同協会員は利根観光会館で夜2時間、傷んだ頭や胴体にペンキを塗り、穴が空いた部分をふさぎます。同協会長の萩原忠和さんは「年数の長いものは35年以上たつが丈夫。自分たちが担ぐからこそ愛着が湧き、大事にしています」と話します。
「大蛇まつり」は90年以上前に始まり、「大蛇みこし」は昭和30年頃から担がれています。昨年は新型コロナウイルスで祭りは中止。今年も状況をしながら開催を検討しています。祭りや地域を担う世代の確保が厳しい中、老神から離れても、祭りに参加するために故郷に帰ってくる人も多いそう。思い出や記憶が懐かしく、祭りが皆の思いをつなぎ合わせているかのように感じられます。後継者を作り、いつになつても祭りを地域の伝統として残していけるよう、修復作業に思いを込め、自分たちの大事な地域を守り続けています。



高島屋に白蛇みこし登場



2019年7月、高崎高島屋と老神温泉の企画で、デパート内を白蛇が練り歩くとお客さんは大にぎわい



河原で露天風呂



菌原ダム竣工前(昭和39年頃)は、河原から沸くお湯で入浴を楽しめ、対岸に架かる橋も多く見られました



108メートルみこし ギネスへ



平成25年に大蛇みこしがギネスに登録。実物のアオダイショウをモデルにしています